

●環境問題

【011】 1997年12月、京都市の国立京都国際会館で開かれた**第3回気候変動枠組条約締約国会議**(地球温暖化防止京都会議、**COP3**)で同月11日に採択された、気候変動枠組条約に関する議定書を何というか。

- 1 京都議定書
- 2 ウィーン議定書
- 3 ロンドン議定書
- 4 ジュネーヴ議定書
- 5 名古屋議定書

【012】 011の議定書において日本政府は、1990年比で2008～2012年に【 A 】%の温室効果ガスの排出量削減を義務付けられ、日本はこの目標は達成することが【 B 】。

- | | A | B |
|---|---|--------|
| 1 | 4 | できた |
| 2 | 5 | できなかった |
| 3 | 5 | できた |
| 4 | 6 | できなかった |
| 5 | 6 | できた |

【013】 2015年12月、第【 A 】回国連気候変動枠組条約締約国会議(COP【 A 】)において、2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みとして、【 B 】が採択された。歴史上はじめて、気候変動枠組条約に加盟する196カ国全ての国が削減目標・行動をもって参加することをルール化した公平な合意である。

- | | A | B |
|---|----|---------|
| 1 | 21 | パリ協定 |
| 2 | 21 | グラスゴー合意 |
| 3 | 23 | パリ協定 |
| 4 | 23 | グラスゴー合意 |
| 5 | 25 | パリ協定 |

【014】 013の協定について。目標は産業革命前からの気温上昇を【 A 】度未満(努力目標として【 B 】度未満)に抑えることとされた。2020年から実施期間が開始し、国連は各国が作成した自主目標を【 C 】年ごとに見直すよう求めている。

- | | A | B | C |
|---|-----|-----|---|
| 1 | 1.5 | 1 | 3 |
| 2 | 2 | 1.5 | 3 |
| 3 | 1.5 | 1 | 5 |
| 4 | 2 | 1.5 | 5 |
| 5 | 2.5 | 2 | 5 |

【015】環境に関する説明文と、それを表す語句の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

A：持続可能な開発目標

B：温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。

C：生産活動などの結果、排出される廃棄物をなくすこと。

D：企業活動が環境・社会・経済に及ぼす影響を包括的に分析・評価し当該活動の継続的な支援を目的とした融資。

	A	B	C	D
1	IPCC	カーボンニュートラル	グリーンロジスティックス	ポジティブ・インパクト・ファイナンス
2	IPCC	プレッジ・アンド・レビュー	ゼロ・エミッション	ポジティブ・インパクト・ファイナンス
3	SDGs	カーボンニュートラル	グリーンロジスティックス	エクイティ・ファイナンス
4	SDGs	プレッジ・アンド・レビュー	グリーンロジスティックス	エクイティ・ファイナンス
5	SDGs	カーボンニュートラル	ゼロ・エミッション	ポジティブ・インパクト・ファイナンス

【016】CO2 排出量が世界で1番多い国はどこか。(2018年)

- 1 中国
- 2 アメリカ
- 3 インド
- 4 ロシア
- 5 日本

【017】2020年10月、菅総理はカーボンニュートラルを()年までに目指すと宣言した。

- 1 2030
- 2 2050
- 3 2075
- 4 2080
- 5 2100

【018】2021年4月、日本政府は温室効果ガスを2013年度比で2030年までに【 A 】%削減するとした。
また、当初からの長期目標である2050年までの削減目標は【 B 】%である。

	A	B
1	26	46
2	26	71
3	46	80
4	46	71
5	50	80

【019】2020年11月4日、パリ協定から離脱したが、2021年2月19日に復帰した国はどこか。

- 1 中国
- 2 ロシア
- 3 アメリカ
- 4 ブラジル
- 5 サウジアラビア

【020】次の表はわが国の2030年度目標のエネルギー計画に関するものである。Aに入る語句を選びなさい。

	従来目標	2021年10月に設定された目標
A	22%～24%	36%～38%
B	56%	41%
C	20%～22%	20%～22%

- 1 再生可能エネルギー
- 2 火力
- 3 原子力
- 4 太陽光
- 5 風力

【021】安全性、安定供給、経済性、環境の頭文字をとったもので、日本のエネルギー政策の原則となるものは何か。

- 1 2A2K
- 2 GOALS
- 3 3R
- 4 S+3E
- 5 SSSS

【011】 1 京都議定書

対象ガス(6 ガス)

二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、HFCs、PFCs、SF6

削減基準年 1990年(HFCs、PFCs、SF6については、1995年としてもよい)

先進国全体で 2008年～2012年までの約束期間に、削減基準年の排出量から 5.2% 削減することが約束された。
EU-8% アメリカ-7% 日本-6%、途上国は自発的義務とされた。

条約の発効の条件は

- ・ 55 以上以上の国が締結
- ・ 締結した附属書 I 国(先進国、積極的に参加した諸国)の合計の二酸化炭素の 1990 年の排出量が、全附属書 I 国の合計の排出量の 55%以上。

世界第二位の温室効果ガス排出国であるアメリカ合衆国が国内事情により締結を見送っている。

→そのため条約が発効されないままであった。

→2001年、COP7でマラケシュ合意という京都議定書実施のルールが決まった。

→2004年にロシア連邦が批准したことにより、2005年2月16日に発効した。

【012】 5 6% できた

【013】 1 COP21 パリ協定

中国	2030年までに 60-65%削減	2005年比
EU	2030年までに 40%削減	1990年比
インド	2030年までに 33-35%削減	2005年比
日本	2030年までに <u>26%</u> 削減	2013年度比
ロシア	2030年までに 70-75%削減	1990年比
アメリカ	2025年までに 26-28%削減	2005年比

【全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>) より引用】

【014】 4 2度未満(努力目標として 1.5度未満)、5年ごとに見直し。

【015】 5 SDGs カーボンニュートラル ゼロ・エミッション ポジティブ・インパクト・ファイナンス

IPCC：気候変動に関する政府間パネル

プレッジ・アンド・レビュー：各国が自主的な削減目標を掲げ(プレッジ)、削減目標の確認を第三者から受けながら(レビュー)温室効果ガスを削減していくこと。

グリーンロジスティックス：環境にやさしい物流システム

エクイティ・ファイナンス：新株発行を伴う資金調達

【016】 1 中国 28.4%

2位：アメリカ 14.7% 3位：インド 6.9% 4位：ロシア 4.7% 5位：日本 3.2%

日本は6年連続で排出削減、2019年度は過去30年で最少。

【017】 2 2050年

【018】 3 46% 80%

※当初は2030年までに26%であったが、変更された。さらに、50%削減の高みを目指すともしている。

【019】 3 アメリカ

トランプ政権で離脱したが、バイデン政権成立後すぐに復帰した。

【020】 1 再生可能エネルギー

風力や太陽光だけでなく、再生可能エネルギーすべてでの目標値。

Bは火力、Cは原子力である。原子力は2019年度において6%程度であったが、今後は停止中の原発の再稼働を目指している。

※2021年12月における発電量の割合は、火力が77%、原子力が7.5%、水力が6.3%、太陽光が5.8%となっている。バイオマス、風力は共に1.5%程度である。

【021】 4 S+3E

安全性(Safety)、安定供給(Energy security)、経済性(Economic efficiency)、環境(Environment)

3R：リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)